

表 I -2.5.9 様式-3(1):型 O5-1 概査調査票：堰堤工

様式-3(1) :型O5-1 概査調査票(個別施設記録用) 地すべり防止施設機能診断調査

＜堰堤工＞ ※施設群の評価は様式-3(1)型00-1 緯度 経度

点検年月日 / / 天候 点検者

区域名 地すべりブロック名 施設名 施工年度 年

構造/材質 高さ 延長 (調査票番号:)

■現地確認事項

施設状況	種類	☐ コンクリート ☐ 鋼製枠 (形式) 副堤 (基) 垂直壁 (基) 側壁護岸	水叩き有無	問題あり
	堆積状況	☐ 満砂済み ☐ 満砂していない	コメント (堆砂高減少の痕跡有無)	問題あり
	渓流内の流水状況等		水質・計測値等	問題あり
湧水状況	湧水状況	☐ 湧水あり 流量(最大) 1/分	水質・計測値等	問題あり
観測施設	計測器名			問題あり

■部位の変状レベル 各項目で当てはまる状況の番号を記入し、最も悪い状態についてレベル判定する。また、判定根拠とする写真番号を示す。

工種・部位	項目	状況 (異常な状況がない場合は0とする、複合的な状況その他の場合は9とする)	①変状レベル					②部位の健全度 (A～D)	
			a	b	c	d	該当写真		
堰堤工	☐ 本体	破損・欠損※	1.欠損・2.ひび割れ・3.脱落・4.摩耗(天端摩耗)						
			5.破断・6.中詰材の流出(籠枠工等の場合)						
		変位・変形※	1.ずれ・2.はらみ出し・3.傾倒・4.沈下						
		腐食	1.発錆(籠枠工などの場合)						
	☐ 袖	洗掘	1.基礎地盤の洗掘						
		破損・欠損※	1.欠損・2.ひび割れ・3.脱落・4.摩耗						
			5.破断・6.中詰材の流出(籠枠工等の場合)						
		変位・変形※	1.ずれ・2.はらみ出し・3.傾倒・4.沈下						
	☐ 側壁護岸工	腐食	1.発錆(籠枠工などの場合)						
		洗掘	1.基礎地盤の洗掘						
		破損・欠損※	1.欠損・2.ひび割れ・3.脱落・4.摩耗						
			5.破断・6.中詰材の流出(籠枠工等の場合)						
		変位・変形※	1.ずれ・2.はらみ出し・3.傾倒・4.沈下						
		腐食	1.発錆(籠枠工などの場合)						
	☐ 水叩き	洗掘	1.基礎地盤の洗掘						
		施設背面の変状	1.吸出し・2.陥没・3.侵食・4.湧水・5.構造物背面のすきま						
☐	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.摩耗							

※破損・欠損・変位・変形に裏込め土等の流出が伴う場合は、コメントを残すこと。

③施設の健全度(i～iv) [最も悪い部位の健全度に基づいて決定]

※①変状レベル(a～d)、②部位の健全度(A～D)、③施設の健全度(i～iv)の順に各々最も悪い評価を統合し、施設全体を評価する。

③ ← ② ← ①			評価指標
施設の健全度	i	A	a : 項目に挙げた現象・状況が見られない、もしくは目視困難なほど軽微である ……(機能低下していない状態)
ii	B	b	: 項目に挙げた現象・状況に対し軽微な変状がある …(本質的に支障はないが放置すると機能低下を招く恐れがある状態)
iii	C	c	: 項目に挙げた現象・状況に対し限定的(局所的)ではあるが明らかな変状がある ……(機能低下している状態)
iv	D	d	: 項目に挙げた現象・状況に対し著しい変状がある ……(明らかに機能低下、または機能喪失している状態)

施設周辺地盤状況 ☐ 施設機能に影響する変状がある ☐ 施設機能に影響する変状がない

その他の状況 (地すべり・崩壊・土石流の発生状況等)

■総合評価 該当する選択肢に○を付ける。点検者から施設管理者への伝達事項として「対応の目安」を示す。

対応の目安	判断目安(原則、判断の目安に沿って選択する。原則とは異なる選択をする場合は理由をコメント欄に必ず記入する。)
問題なし	施設の健全度が i である場合 (部位の健全度全てがAの場合)
監視	施設の健全度が ii である場合 (部位の健全度でBが一つでも含まれる場合)
軽微な補修	施設の健全度が iii である場合 (部位の健全度でCが一つでも含まれる場合)
補修・更新	施設の健全度が iv (部位の健全度でDが一つでも含まれる場合) であり、かつ要因が明らかである場合や対応方法が明確な場合
要詳細調査	施設の健全度が iv であり、かつ要因が明らかでない場合や対応方法が明確でない場合

緊急対応の必要性 ☐ 有 ☐ 無

【判断目安】①地すべりの再活動や新たな変状 ②災害等で施設が破損 ③人的被害発生の懸念

状況と対応策

■点検結果と対応の目安に対するコメント 変状の発生要因の推定、総合評価の判断理由等

表 I -2.5.10 様式-3(1):型 O6-1 概査調査票：押え盛土工

様式-3(1) : 型O6-1		概査調査票 (個別施設記録用)		地すべり防止施設機能診断調査						
<押え盛土工>		※施設群の評価は様式-3(1)型00-1		緯度	経度					
点検年月日	/ /	天候	点検者							
区域名	地すべりブロック名	施設名	施工年度	年						
盛土量	盛土高(直高・全高)	法面勾配	延長	(調査票番号:)						
■現地確認事項										
施設状況	法面保護工 ☐ なし ☐ あり (工種:)	付帯施設 ☐ なし ☐ あり (工種:)	問題あり							
集排水状況	☐ 暗きょ工等あり ☐ 水路あり ☐ 流水なし ☐ 流水あり 流量(最大) l/分	流水状況		問題あり						
湧水状況	法面湧水 ☐ 湧水あり 流量(最大) l/分	水質・計測値等		問題あり						
観測施設	計測器名									
■部位の変状レベル 各項目で当てはまる状況の番号を記入し、最も悪い状態についてレベル判定する。また、判定根拠とする写真番号を示す。										
工種・部位	項目	状況 (異常な状況がない場合は0とする、複合的な状況その他の場合は9とする)	①変状レベル					②部位の健全度 (A～D)		
			a	b	c	d	該当写真			
押え盛土	□ 本体 (盛土)	破損・欠損	1.亀裂・2.崩落・3.侵食・4.洗掘							
		変位・変形	1.はらみ出し・2.沈下・3.隆起							
		その他変状	1.湧水・2.その他							
	□ 法面保護工 (現場打ち法枠工、プレキャスト法枠工、石張工、籠工、編籠工、植生工等)	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.脱落 4.破断・5.中詰材の流出(籠枠工などの場合)							
		変位・変形	1.ずれ・2.はらみ出し・3.傾倒・4.沈下							
		腐食	1.発錆(籠枠工などの場合)							
植生生育状況		1.植生工あり(a:良好, b:一部生育不良, c:全体生育不良)								
付帯施設	□ 土留め工 (腰止ブロック等)	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.脱落 4.破断・5.中詰材の流出(籠枠等の場合)							
		変位・変形	1.ずれ・2.はらみ出し・3.傾動							
		腐食	1.発錆(籠枠工などの場合)							
		その他	1.湧水(裏込め土等の流出を伴う、流量が大きい)							
		施設背面の変状	1.吸出し・2.陥没・3.侵食・4.湧水・5.構造物背面のすきま							
	□ 暗きょ・ドレーン工	基礎地盤の変状	1.沈下・2.隆起(地盤に接している本体の変形で判断)							
		閉塞(孔口状況)	1.土砂堆積・2.落葉等堆積・3.植物侵入・4.その他							
		□ 排水路工 (集水升工・落差工含めて評価)	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.摩耗						
			変位・変形	1.屈曲・2.ずれ(目地切れ等)・3.逆勾配						
			腐食	1.発錆						
閉塞・埋没	1.土砂堆積・2.落葉等堆積・3.植物侵入・4.その他									
※必要に応じ、類似した工種用の概査調査票を用いて、各点検ポイントに準じて判定する。			③施設の健全度(i～iv) (最も悪い部位の健全度に基づいて決定)							
※①変状レベル(a～d)、②部位の健全度(A～D)、③施設の健全度(i～iv)の順に各々最も悪い評価を統合し、施設全体を評価する。										
③ ← ② ← ① 評価指標										
施設の健全度	i	A	a	: 項目に挙げた現象・状況が見られない、もしくは目視困難なほど軽微である …………… (機能低下していない状態)						
	ii	B	b	: 項目に挙げた現象・状況に対し軽微な変状がある … (本質的に支障はないが放置すると機能低下を招く恐れがある状態)						
	iii	C	c	: 項目に挙げた現象・状況に対し限定的(局所的)ではあるが明らかな変状がある …………… (機能低下している状態)						
	iv	D	d	: 項目に挙げた現象・状況に対し著しい変状がある …………… (明らかに機能低下、または機能喪失している状態)						
施設周辺地盤状況			☐ 施設機能に影響する変状がある ☐ 施設機能に影響する変状がない							
その他の状況										
■総合評価 該当する選択肢に○を付ける。点検者から施設管理者への伝達事項として「対応の目安」を示す。										
対応の目安			判断目安(原則、判断の目安に沿って選択する。原則とは異なる選択をする場合は理由をコメント欄に必ず記入する。)							
問題なし			施設の健全度が i である場合 (部位の健全度全てがAの場合)							
監視			施設の健全度が ii である場合 (部位の健全度でBが一つでも含まれる場合)							
軽微な補修			施設の健全度が iii である場合 (部位の健全度でCが一つでも含まれる場合)							
補修・更新			施設の健全度が iv (部位の健全度でDが一つでも含まれる場合) であり、かつ要因が明らかである場合や対応方法が明確な場合							
要詳細調査			施設の健全度が iv であり、かつ要因が明らかでない場合や対応方法が明確でない場合							
緊急対応の必要性	有	【判断目安】①地すべりの再活動や新たな変状 ②災害等で施設が破損 ③人的被害発生の際								
	無	状況と対応策								
■点検結果と対応の目安に対するコメント 変状の発生要因の推定、総合評価の判断理由等										

表 I-2.5.11 様式-3(1):型 O7-1 概査調査票：排土工(切土法面保護工)

様式-3(1) : 型 O7-1		概査調査票 (個別施設記録用)		地すべり防止施設機能診断調査					
＜排土工(切土法面保護工)＞		※施設群の評価は様式-3(1)型00-1		緯度	経度				
点検年月日	/ /	天候		点検者					
区域名		地すべりブロック名		施設名					
排土量		切土高(直高・全高)		法面勾配					
		延長		(調査票番号:)					
■現地確認事項									
施設状況	法面保護工	☐ なし ☐ あり (工種:)	付帯施設	☐ なし ☐ あり (工種:)	問題あり				
湧水状況	集排水状況	☐ 暗きょ工等あり ☐ 水路あり ☐ 流水なし ☐ 流水あり 流量(最大) 1/分	流水状況		問題あり				
観測施設	法面湧水	☐ 湧水あり	流量(最大) 1/分	水質・計測値等	問題あり				
■部位の変状レベル 各項目で当てはまる状況の番号を記入し、最も悪い状態についてレベル判定する。また、判定根拠とする写真番号を示す。									
工種・部位	項目	状況 (異常な状況がない場合は0とする、複合的な状況その他の場合は9とする)	①変状レベル					②部位の健全度 (A～D)	
			a	b	c	d	該当写真		
排土工	排土法面 排土平坦面	破損・欠損	1.亀裂・2.崩落・3.侵食・4.洗掘						
		変位・変形	1.はらみ出し・2.沈下・3.隆起						
		その他変状	1.湧水・2.土塊への水の流入・3.その他						
法面保護工	法面保護工 (モルタル・コンクリート吹付工、現場打ち法枠工、プレキャスト法枠工、石張工、鉄筋挿入工、籠工、編籠工、植生工等)	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.脱落 4.破断・5.中詰材の流出(籠枠工などの場合)						
		変位・変形	1.ずれ・2.はらみ出し・3.傾倒・4.沈下						
		腐食	1.発錆(籠枠工などの場合)						
		植生生育状況	1.植生工あり(a:良好、b:一部生育不良、c:全体生育不良)						
	併用法※ (土圧や地すべりに対抗するもの)	施設背面の変状	1.構造物背面のすきま(背面地盤侵食による浮きなど)						
		右の工種の変状	1.擁壁(枠)工 2.杭工 3.アンカー工						
付帯施設※	排水路工 (集水升工・落差工含めて評価)	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.摩耗						
		変位・変形	1.屈曲・2.ずれ(目地切れ等)・3.逆勾配						
		腐食	1.発錆						
		閉塞・埋没	1.土砂堆積・2.落葉等堆積・3.植物侵入・4.その他						
※併用法は、各工種ごとに評価し、①変状レベルの記載欄にその結果を記録する。 (別途該当する調査票を用いて評価する。その際、併用法の施設の健全度 i = a, ii = b, iii = c, iv = dと置き換えて本票へ記録、存在しなければ空欄とする)									
※水抜きボーリング工等の地下水排除工が併設されている場合は、別途該当する調査票を用いて評価すること。その際、本票で付帯施設とした排水路工との接続部を様式-3(2)に明記すること。									
※①変状レベル(a～d)、②部位の健全度(A～D)、③施設の健全度(i～iv)の順に各々最も悪い評価を統合し、施設全体を評価する。									
評価指標									
施設の健全度	部位の健全度	変状レベル	a	項目に挙げた現象・状況が見られない、もしくは目視困難なほど軽微である …………… (機能低下していない状態)					
			b	項目に挙げた現象・状況に対し軽微な変状がある … (本質的に支障はないが放置すると機能低下を招く恐れがある状態)					
			c	項目に挙げた現象・状況に対し限定的(局所的)ではあるが明らかな変状がある …………… (機能低下している状態)					
			d	項目に挙げた現象・状況に対し著しい変状がある …………… (明らかに機能低下、または機能喪失している状態)					
施設周辺地盤状況		☐ 施設機能に影響する変状がある ☐ 施設機能に影響する変状がない							
その他の状況									
■総合評価 該当する選択肢に○を付ける。点検者から施設管理者への伝達事項として「対応の目安」を示す。									
対応の目安		判断目安(原則、判断の目安に沿って選択する。原則とは異なる選択をする場合は理由をコメント欄に必ず記入する。)							
問題なし	施設の健全度が i である場合 (部位の健全度全てがAの場合)								
監視	施設の健全度が ii である場合 (部位の健全度でBが一つでも含まれる場合)								
軽微な補修	施設の健全度が iii である場合 (部位の健全度でCが一つでも含まれる場合)								
補修・更新	施設の健全度が iv (部位の健全度でDが一つでも含まれる場合)であり、かつ要因が明らかである場合や対応方法が明確な場合								
要詳細調査	施設の健全度が iv であり、かつ要因が明らかでない場合や対応方法が明確でない場合								
緊急対応の必要性	有 無	【判断目安】①地すべりの再活動や新たな変状 ②災害等で施設が破損 ③人的被害発生状態	状況と対応策						
■点検結果と対応の目安に対するコメント 変状の発生要因の推定、総合評価の判断理由等									

表 I -2.5.12 様式-3(1):型 08-1 概査調査票：擁壁(枠)工

様式-3(1) :型08-1

概査調査票(個別施設記録用)

地すべり防止施設機能診断調査

＜擁壁(枠)工＞		※施設群の評価は様式-3(1)型00-1		緯度		経度	
点検年月日	/ /	天候		点検者			
区域名	地すべりブロック名			施設名	施工年度		年
構造/材質	高さ			延長	(調査票番号:)		

■現地確認事項

施設状況	種類	☐ ふとん籠	☐ 片法枠	☐ 籠枠	☐ ブロック積み工	☐ コンクリート擁壁工	☐ 他	問題あり	
湧水状況	湧水状況	☐ 流水あり : 流量(最大) l/分					問題あり		
	水質状況	計測値等					問題あり		
観測施設	計測器名						問題あり		

■部位の変状レベル 各項目で当てはまる状況の番号を記入し、最も悪い状態についてレベル判定する。また、判定根拠とする写真番号を示す。

工種・部位		項目	状況 (異常な状況がない場合は0とする、複合的な状況その他の場合は9とする)	①変状レベル					②部位の健全度 (A～D)
				a	b	c	d	該当写真	
本体	☐ 擁壁(枠)工	破損・欠損※	1.欠損・2.ひび割れ・3.脱落						
			4.破断・5.中詰材の流出(籠枠工などの場合)						
		変位・変形※	1.ずれ・2.はらみ出し・3.傾倒						
		腐食	1.発錆(籠枠工などの場合)						
		その他※	1.湧水(裏込め土等の流出を伴う、流量が大きい)						
		施設背面の変状	1.吸出し・2.陥没・3.侵食・4.湧水・5.構造物背面のすきま						
付帯施設	☐ 落石防護柵等	破損・欠損	1.破断・2.緩み						
		変位・変形	1.折れ・2.曲がり						
		腐食	1.発錆						
	☐ 法尻水路部(法尻水路・水抜き管)	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.摩耗						
		変位・変形	1.屈曲・2.ずれ(目地切れ等)・3.逆勾配						
		腐食	1.発錆						
		閉塞・埋没	1.土砂堆積・2.落葉等堆積・3.植物侵入・4.その他						

※破壊・欠損・変位・変形に裏込め土等の流出が伴う場合は、コメントを残すこと。

③施設の健全度(i～iv)
[最も悪い部位の健全度に基づいて決定]

※①変状レベル(a～d)、②部位の健全度(A～D)、③施設の健全度(i～iv)の順に各々最も悪い評価を統合し、施設全体を評価する。

③ ← ② ← ①		評価指標
施設の健全度	i	部位の健全度 A
	ii	部位の健全度 B
	iii	部位の健全度 C
	iv	部位の健全度 D

施設周辺地盤状況	☐ 施設機能に影響する変状がある ☐ 施設機能に影響する変状がない
その他の状況	

■総合評価 該当する選択肢に○を付ける。点検者から施設管理者への伝達事項として「対応の目安」を示す。

対応の目安	判断目安(原則、判断の目安に沿って選択する。原則とは異なる選択をする場合は理由をコメント欄に必ず記入する。)
問題なし	施設の健全度が i である場合(部位の健全度全てがAの場合)
監視	施設の健全度が ii である場合(部位の健全度でBが一つでも含まれる場合)
軽微な補修	施設の健全度が iii である場合(部位の健全度でCが一つでも含まれる場合)
補修・更新	施設の健全度が iv (部位の健全度でDが一つでも含まれる場合)であり、かつ要因が明らかである場合や対応方法が明確な場合
要詳細調査	施設の健全度が iv であり、かつ要因が明らかでない場合や対応方法が明確でない場合
緊急対応の必要性	有 無
	【判断目安】①地すべりの再活動や新たな変状 ②災害等で施設が破損 ③人的被害発生 の懸念
	状況と対応策

■点検結果と対応の目安に対するコメント 変状の発生要因の推定、総合評価の判断理由等

--

表 I -2.5.13 様式-3(1):型 O8-1 概査調査票：杭工

様式-3(1) :型O9-1		概査調査票(個別施設記録用)		地すべり防止施設機能診断調査					
<杭工>		※施設群の評価は様式-3(1)型00-1		緯度	経度				
点検年月日	/ /	天候	点検者						
区域名	地すべりブロック名	施設名	施工年度	年					
構造/材質	杭長	直径	肉厚等	(調査票番号:)					
■現地確認事項									
施設状況	杭頭視認	☐ 可 ☐ 否 (状況:)	付帯施設	☐ なし ☐ あり (工種:)	問題あり				
	配置状況	列 × 本数	合計	状況	問題あり				
湧水状況	法面湧水	☐ 湧水あり	流量(最大)	l/分	水質・計測値等				
観測施設	計測器名				問題あり				
■部位の変状レベル 各項目で当てはまる状況の番号を記入し、最も悪い状態についてレベル判定する。また、判定根拠とする写真番号を示す。									
工種・部位	項目	状況 (異常な状況がない場合は0とする、複合的な状況その他の場合は9とする)	①変状レベル					②部位の健全度 (A~D)	
			a	b	c	d	該当写真		
杭工	本体 【注意】杭の地中部分は目視点検が困難なため、杭頭と周辺の地盤との相対的な変状に着目	変位・変形	1.杭頭の配列の乱れ						
			2.杭の傾き						
			3.地盤と杭との隙間						
			4.杭の抜け上がり						
			5.中抜け(杭の間の地盤の中抜け)						
付帯施設※	土留め工 (腰止ブロック等)	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.脱落						
		変位・変形	1.ずれ・2.はらみ出し・3.傾倒						
		腐食	1.発錆(籠枠工などの場合)						
		その他※	1.湧水(裏込め土等の流出を伴う、流量が大きい)						
		施設背面の変状	1.吸出し・2.陥没・3.侵食・4.湧水・5.構造物背面のすきま						
	頭部連結工	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.目地切れ・4.摩耗						
		変位・変形	1.ずれ・2.はらみ出し・3.傾倒						
	アンカー工	破損・欠損	1.損傷・2.飛び出し						
		腐食	1.発錆						
	※必要に応じ、類似した工種用の点検票を用いて、各点検ポイントに準じて判定する。						③施設の健全度(i~iv) [最も悪い部位の健全度に基づいて決定]		
※①変状レベル(a~d)、②部位の健全度(A~D)、③施設の健全度(i~iv)の順に各々最も悪い評価を統合し、施設全体を評価する。									
③ ← ② ← ①		評価指標							
施設の健全度	i	A	a	: 項目に挙げた現象・状況が見られない、もしくは目視困難なほど軽微である …………… (機能低下していない状態)					
	ii	B	b	: 項目に挙げた現象・状況に対し軽微な変状がある … (本質的に支障はないが放置すると機能低下を招く恐れがある状態)					
	iii	C	c	: 項目に挙げた現象・状況に対し限定的(局所的)ではあるが明らかな変状がある …………… (機能低下している状態)					
	iv	D	d	: 項目に挙げた現象・状況に対し著しい変状がある …………… (明らかに機能低下、または機能喪失している状態)					
施設周辺地盤状況		☐ 施設機能に影響する変状がある							
		☐ 施設機能に影響する変状がない							
その他の状況									
■総合評価 該当する選択肢に○を付ける。点検者から施設管理者への伝達事項として「対応の目安」を示す。									
対応の目安		判断目安(原則、判断の目安に沿って選択する。原則とは異なる選択をする場合は理由をコメント欄に必ず記入する。)							
問題なし	施設の健全度が i である場合 (部位の健全度全てがAの場合)								
監視	施設の健全度が ii である場合 (部位の健全度でBが一つでも含まれる場合)								
軽微な補修	施設の健全度が iii である場合 (部位の健全度でCが一つでも含まれる場合)								
補修・更新	施設の健全度が iv (部位の健全度でDが一つでも含まれる場合)であり、かつ要因が明らかである場合や対応方法が明確な場合								
要詳細調査	施設の健全度が iv であり、かつ要因が明らかでない場合や対応方法が明確でない場合 (地盤内部の確認が必要な場合等)								
緊急対応の必要性	有	【判断目安】①地すべりの再活動や新たな変状 ②災害等で施設が破損 ③人的被害発生懸念	状況と対応策						
■点検結果と対応の目安に対するコメント 変状の発生要因の推定、総合評価の判断理由等									

表 I -2.5.14 様式-3(1):型 10-1 概査調査票：アンカー工(1)

様式-3(1) :型10-1 概査調査票(個別施設記録用) 地すべり防止施設機能診断調査

<アンカー工(1)> ※別紙(2)にて、個々のアンカーごとに評価すること

点検年月日	/ /	天候	点検者	緯度	経度
区域名	地すべりブロック名	施設名	施工年度	年	
構造/材質	合計本数	旧型 ☐ 該当 ☐ 不明 ☐	(調査票番号:)		

■現地確認事項

目視状況	目視可否 ☐ 可 ☐ 否 ☐ 一部否	状況	問題あり ☐
施設状況	テンドンの飛び出し防止対策の有無 ☐ あり ☐ なし ☐ 他	状況	問題あり ☐
観測施設	計測器名		問題あり ☐

■部位の変状レベル 各項目で当てはまる状況の番号を記入し、最も悪い状態についてレベル判定する。また、判定根拠とする写真番号を示す。

工種・部位	項目	状況 (異常な状況がない場合は0とする、複合的な状況その他の場合は9とする)	①変状レベル				②部位の健全度 (A~D)
			a	b	c	d	
テンドン □ テンドン 頭部コンクリート □ 頭部コンクリート 頭部保護 □ 頭部キャップ	飛び出し・抜け落ち	1、テンドンの飛び出し、2、抜け落ち					
	腐食	1、頭部保護がない場合のテンドンの腐食					
	変位・変形	1、頭部コンクリートの浮き上がり					
	破損・欠損	1、破損・2、部分的な欠損					
		3、0.5mm幅を超える程度のひび割れ					
	その他	1、頭部コンクリート背面からの漏水・錆汁					
		2、頭部コンクリートからの遊離石灰					
	3、頭部コンクリート背面に隙間						
	変位・変形	1、頭部キャップの浮き					
		破損・欠損	1、頭部キャップの損傷・2、緩み・3、欠落				
			腐食・変質	1、頭部キャップの材質劣化・2、肉厚減少・3、浮きを伴う腐食			
		固定ボルトの状態	1、固定ボルトの破損・腐食・2、緩み				
その他		1、頭部キャップ背面からの漏水					
2、頭部キャップ周辺の防錆油漏れによる汚れ							
プレート □ プレート	変位・変形	1、プレートが人力で回転可能					
		1、頭部・プレートの浮き(目視による確認)					
	腐食・変質	1、プレートの肉厚減少や浮きを伴う腐食					
	その他	1、プレート背面からの漏水					
	1、プレート周辺の汚れ						
受圧構造物 □ 受圧構造物	破損・欠損	1、0.5mm幅以上の連続したひび割れ、2、段差等を伴うひび割れ					
	変位・変形	1、受圧構造物の大きな変状					
	腐食・変質	1、受圧構造物の肉厚減少や浮きを伴う腐食					
	その他	2、アンカー直下まで達するような大きな隙間					
		3、受圧構造物周辺の湧水					

異常割合(2)より転記) 異常アンカーの本数: 本 全数に対する割合: %

※①変状レベル(a~d)、②部位の健全度(A~D)、③施設の健全度(i~iv)の順に各々最も悪い評価を統合し、施設全体を評価する。

③施設の健全度(i~iv) [最も悪い部位の健全度に基づいて決定]

③ ← ② ← ①				評価指標	
施設の健全度	i	部位の健全度	A	変状レベル	a
ii	B	b			
iii	C	c			
iv	D	d			

施設周辺地盤状況 ☐ 施設機能に影響する変状がある ☐ 施設機能に影響する変状がない

その他の状況

■総合評価 該当する選択肢に○を付ける。点検者から施設管理者への伝達事項として「対応の目安」を示す。

対応の目安	判断目安(原則、判断の目安に沿って選択する。原則とは異なる選択をする場合は理由をコメント欄に必ず記入する。)	
	応点数	合計欄
問題なし	0	右欄①②③の条件に該当する点数を算出し、合計点①+②+③に応じて区分を判断
監視	1~2	
軽微な補修	3	
補修・更新	4	
要詳細調査	5以上	

③加減 +1 | ①+②+③が4以上である場合、かつ要因や対応方法が明確でない場合(加減ならば○付ける)

緊急対応の必要性 ☐ 有 ☐ 無

【判断目安】①地すべりの再活動や新たな変状 ②災害等で施設が破損 ③人的被害発生懸念

状況と対応策

■点検結果と対応の目安に対するコメント 変状の発生要因の推定、総合評価の判断理由等

表 I -2.5.15 様式-3(1):型 10-2 概査調査票：アンカー工(2)

様式-3(1) :型10-2		概査調査票（個別施設記録用）			地すべり防止施設機能診断調査	
＜アンカー工(2)＞ ※個々のアンカーごとの評価				緯度	経度	
点検年月日	/ /		天候	点検者		
区域名	地すべりブロック名			施設名	施工年度	年
構造/材質	合計本数	旧型	☐ 該当 ☐ 不明		(調査票番号:)	

■基本情報調査結果の現地確認

項目	基本情報調査結果	現地確認結果	備考
工法			
間隔(縦×横)	×	×	
配置(段×列)	×	×	
受圧構造物仕様			
受圧構造物の規格			
既往変状・活動履歴			

■点検結果

○各アンカー体に関する事項 個々のアンカーごとに各項目に当てはまる場合は「○」を付ける。なお、段数と番号は必ず記入すること。

点検項目	レベル	異常が見られる項目	段																集計欄	
			番																	
テンド	d	テンドンの飛び出し、抜け落ち																		
	d	頭部保護がない場合のテンドンの腐食																		
頭部コンクリート	d	頭部コンクリートの浮き上がり																		
	c	破損・部分的な欠損																		
	c	0.5mm幅を超える程度のひび割れ																		
	c	頭部コンクリート背面からの漏水・錆汁																		
	b	頭部コンクリートからの遊離石灰																		
	b	頭部コンクリート背面に隙間																		
頭部キャップ	d	頭部キャップの浮き																		
	c	頭部キャップの損傷・緩み・欠落																		
	c	頭部キャップの材質劣化・肉厚減少や浮きを伴う腐食																		
	c	固定ボルトの破損・腐食・緩み																		
	c	頭部キャップ背面からの漏水																		
	b	頭部キャップ周辺の防錆油漏れによる汚れ																		
プレート	d	プレートが人力で回転可能																		
	c	頭部・プレートの浮き(目視による確認)																		
	c	プレートの肉厚減少や浮きを伴う腐食																		
	c	プレート背面からの漏水																		
	b	プレート周辺の汚れ																		
受圧構造物	c	0.5mm幅以上の連続したひび割れ、段差等を伴うひび割れ																		
	c	受圧構造物の大きな変状																		
	c	受圧構造物の肉厚減少や浮きを伴う腐食																		
	c	アンカー直下まで達するような大きな隙間																		
	c	受圧構造物周辺の湧水																		
その他項目 (評価対象外)		テンドンの飛び出し防止対策がある 打音調査で異音を確認																		
個々のアンカーの評価(a～d:最も悪い項目のレベル)																				
異常アンカーの本数		本(全数に対する割合	(%)	レベルの内訳		a	本	b	本	c	本	d	本							

※「異常アンカーの本数」は「レベルb～dのアンカーの本数」とする。「異常アンカーの本数」を調査票(1)へ転記する。

※アンカーに番号がない場合は、下からA,B,C・斜面に向って・左から1,2,3・・・の順で番号を付ける

○地すべりブロック周辺での地山の変状

・アンカー工が対象とする地すべりブロックの側方、 頭部境界の変位の有無	有	無	特記事項 その他確認された事象、異常の発生原因の推定等
・ブロック内、境界周辺の段差、亀裂等の有無			
・アンカー工周辺を中心としたブロック内の湿潤（湧水）の有無			
・周辺構造物の変状			